

中国における高校日本語教師の職業能力と キャリア継続志向

WU HUIZI

本研究の目的は、中国における高校日本語教師の職業能力とキャリア継続志向に関する問題を検討することである。インタビュー調査とアンケート調査によるデータ分析をもとに、中国の高校日本語教師が持っている職業能力が彼らの職業継続志向をどのように影響していくかを探索的方法によって明らかにする。

近年、中国の教育改革の影響を受け、言語科目を英語から日本語に変える学生が急増している。それを背景に、日本語の授業を行う高校が増加している一方、高校日本語の教師不足が深刻な課題となってきている。その課題を解決するため、中国では大学で日本語を専門として学んだ新卒学生が、高校で教育活動に参加することを求められるようになった。

しかし、これらの新卒学生は教育経験がなく、社会経験も乏しい状態であり、自身が学習者に何を教えるべきか、どのように教えるべきかについても理解が不十分である。また、日本語教師の教育内容や教育能力、雇用形態によって、将来的に継続するか否かでキャリア選択に迷う教員も多く、日本語教師の確保の観点からみても大きな問題になっている。

従来、多くの先行研究では日本語教師のキャリア問題、日本語教師の職業能力や資質問題が指摘されてきたものの、実際に中国の高校日本語教師を対象に、高校日本語教師としての職業能力とキャリア継続について実証的に明らかにした論文は極めて少なく、中国の高校日本語教師の実態は十分に把握されているとは言い難い。

そこで、本論では中国の高校日本語教師の職業能力とキャリア継続志向に関する先行研究を整理し、それを踏まえた上で、中国の高校日本語教師を研究対象にインタビュー調査とアンケート調査を実施した。インタビュー対象者は 3 人であり、その 3 人の回答及び先行研究に基づき、Web上のアンケート調査を行い、140 人の有効回答を得た。

データ分析の結果、主に以下のことが明らかになった。

まず、雇用条件として、編成雇用＋学校独自の雇用＝正規雇用の人ほど、非正規雇用 に比べて日本語教師としてのキャリア継続を希望する割合が高い傾向がみられた。また、「日本語教師の

職業能力」と「年収」との関係性を分析したところ、年収が高いほど、日本語教師としてのキャリア継続を希望していることが推測できる。

次に、「職業能力」と「日本語教師としてのキャリア継続志向」を分析した結果、教師としての職業能力は日本語教師のキャリア継続志向に直接的効果はなかったが、雇用条件を通して間接的効果がみられた。

さらに、教師としての職業能力は、キャリア決定度(Lounsbury 尺度)に対して有意な効果を持っていた。つまり職業能力を高めることは、日本語教師の継続を促すと同時に、キャリアの決定度も高める、というのが分析の結果である。

最後に、日本語教師としてのキャリア継続志向とキャリア意思決定度との関係を分析したところ、有意な関連性が見られなかった。キャリア意思決定度は主観的に測定された変数であり、客観的条件にかかわらず、キャリア意思を反映している。そのため、雇用条件や賃金(収入)などの客観的条件によって、規定されやすい「日本語教師としてのキャリア継続志向」とは直接的な関連を示さなかったと思われる。

以上のアンケート調査から得られた知見をもとに、中国の高校日本語教師の職業能力の養成とキャリア継続の確保のため、以下の改善策が考えられる。

第一に、長時間労働を是正することである。第二に、地域別に、非正規雇用で採用される日本語教師の労働条件を改善することである。第三に、日本語教師資格の取得を促進することである。第四に、現職日本語教師向けの研修・養成を行うことである。中国の日本語教師にとって労働市場における競争的環境は今後ますます厳しくなり、こういった中国の状況に踏まえると、優秀な日本語教師の確保には、時代に合う教師を目指し、教師個人の努力以外に、政府は社会環境の変動を考えつつ、教育制度や労働制度の整備も不可欠だと考える。

本論は以上の結論を得たが、分析方法などにおいていくつかの課題が残される。今後の研究課題は、中国の一部ではなく、できるだけ全地域の高校日本語教師に対して調査すべきである。また、本論で用いたデータは Web 調査を用いており、また、回収数も多くないことから、知見の一般化は難しい。大規模アンケートにより、中国全体の日本語教師の実態把握及び職業能力とキャリア形成について検証していくことが今後の課題である。